

※ ○は全国の動向、●は三重県の動向を示す

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

- 多様な人々と協働し主体性を持って人生を切り開く力
- 課題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力
- 若者の対話力低下
 - ・話し合いで合意形成する経験が減少
 - ・話し合っただけで摩擦が起こることを回避する傾向
→ 人との関係を作る教育の必要性
- 高大接続改革→高等学校基礎学力テスト（H31～）、大学入学希望者学力評価テスト（H32～）の実施
- アクティブ・ラーニングへの転換
- 「チーム学校」の実現
- 主権者教育の推進
(公職選挙法改正→選挙権年齢18歳以上に)

2 人口減少・少子化の進行

- 187万人(H19(2007)年)をピークに人口減少局面に入っており、H52(2040)年には150万人に。
- 地方創生の動きの高まり
 - ・若者の県内定着
 - ・地域の担い手育成、地域活性化
- 文科省が小中学校統合の手引きを60年ぶりに改定
- 中学校卒業者数の減少
 - ・29,994人(H2年)をピークに減少傾向、H33年には15,680人に減少
- 南部地域の県立高校における小規模化が進行
 - ・適正規模下限の3学級未満の高校が複数存在
 - ・教育機会の保障や、若者定着に向けて学校存続を求める地域の声が拡大

3 地域を担う人材育成のニーズの高まり

- ものづくり県〔強み〕(県民一人あたり製造品出荷額全国1位)
- 求人と求職にはミスマッチが存在

4 グローバル化の進展

- 人口あたりの外国人登録者数は、全国3位(H27)
- 日本語指導が必要な外国人児童生徒の割合は、全国1位(H26)

5 情報化の進展

- 教育現場におけるICT機器の活用が進展
- プログラミング教育導入

6 教育格差と貧困の連鎖

- 子どもの6人に一人が貧困の状態(16.3% : H24全国)
- 教育格差が原因となって、貧困の連鎖が発生

7 学校の安全確保への対応

- 南海トラフを震源域とする大地震発生の懸念

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

- ① 求められる人物像 …………… 1
- ② 学校への期待 …………… 2
- ③ 学習指導要領改訂の背景とポイント … 3
- ④ 国の教育改革の動向 …………… 4

2 人口減少・少子化の進行

- ① 人口減少の状況 …………… 5
- ② 人口（社会減）の状況 …………… 6
- ③ 中学校卒業生数の推移 …………… 7
- ④ 県立高等学校の入学定員学級数・募集停止・統廃合 …………… 8
- ⑤ 県立高等学校（全日制）学級数一覧 … 9
- ⑥ 都道府県別学級規模一覧…………… 10

3 地域を担う人材育成のニーズの高まり

- ① 三重県の産業構造 …………… 11
- ② 求人・求職の状況 …………… 12

4 グローバル化の進展

- ① 外国人住民数の推移 …………… 13
- ② 日本語指導が必要な外国人生徒数…………… 13
- ③ 海外研修を経験した生徒数…………… 13

5 情報化の進展

- ① 学校における情報化の状況 …………… 14

6 教育格差と貧困の連鎖

- ① 相対的貧困率の推移 …………… 15

7 学校の安全確保への対応

- ① 防災教育の実施状況 …………… 16
- ② 学校の耐震化 …………… 16

8 その他の参考データ

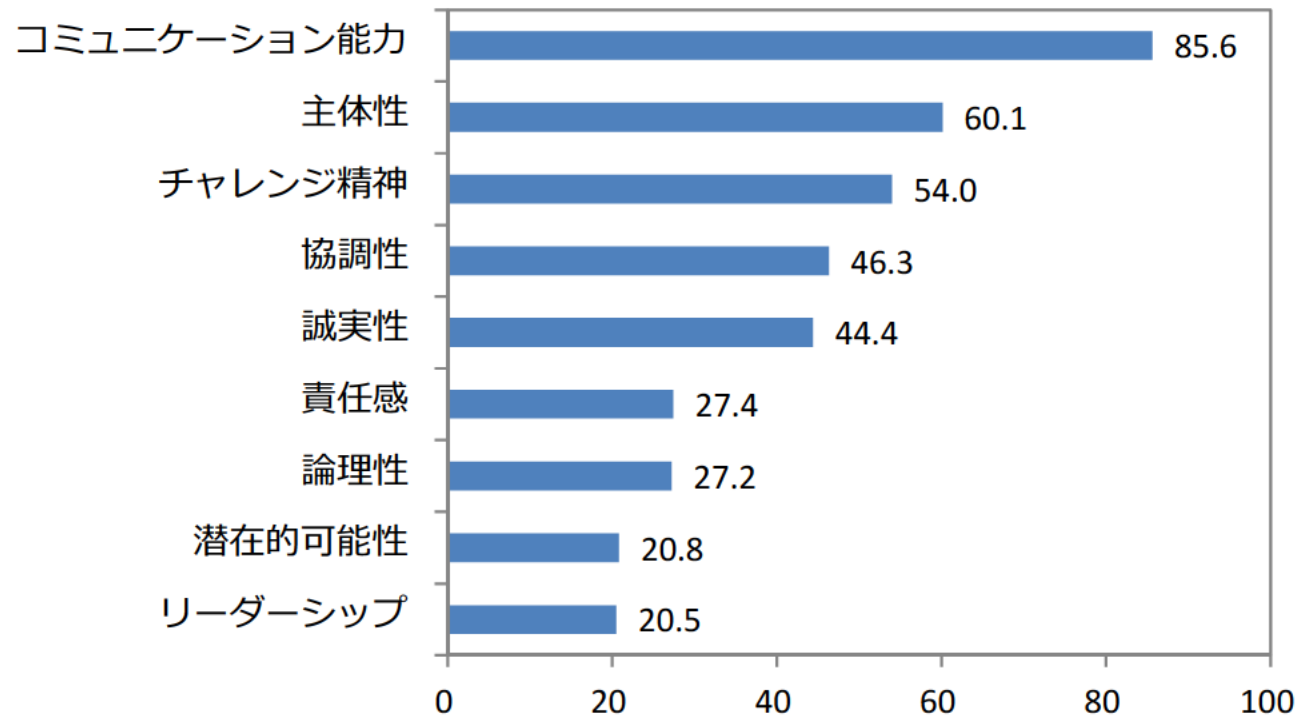
- ① 学校数、生徒数、教員数 …………… 17
- ② 県立学校の所在地 …………… 18
- ③ 県立高等学校の教育課程による分類 … 19
- ④ 県立高等学校の卒業生数、進学率、就職率の推移 …………… 20
- ⑤ 県立高等学校生徒の授業内容の理解度 21
- ⑥ 県立高等学校の特色化・魅力化の事例 22

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

求められる人物像

企業が採用にあたって特に重視した点は、コミュニケーション能力が最も多く、次いで主体性、チャレンジ精神が多い。

企業が採用にあたって特に重視した点



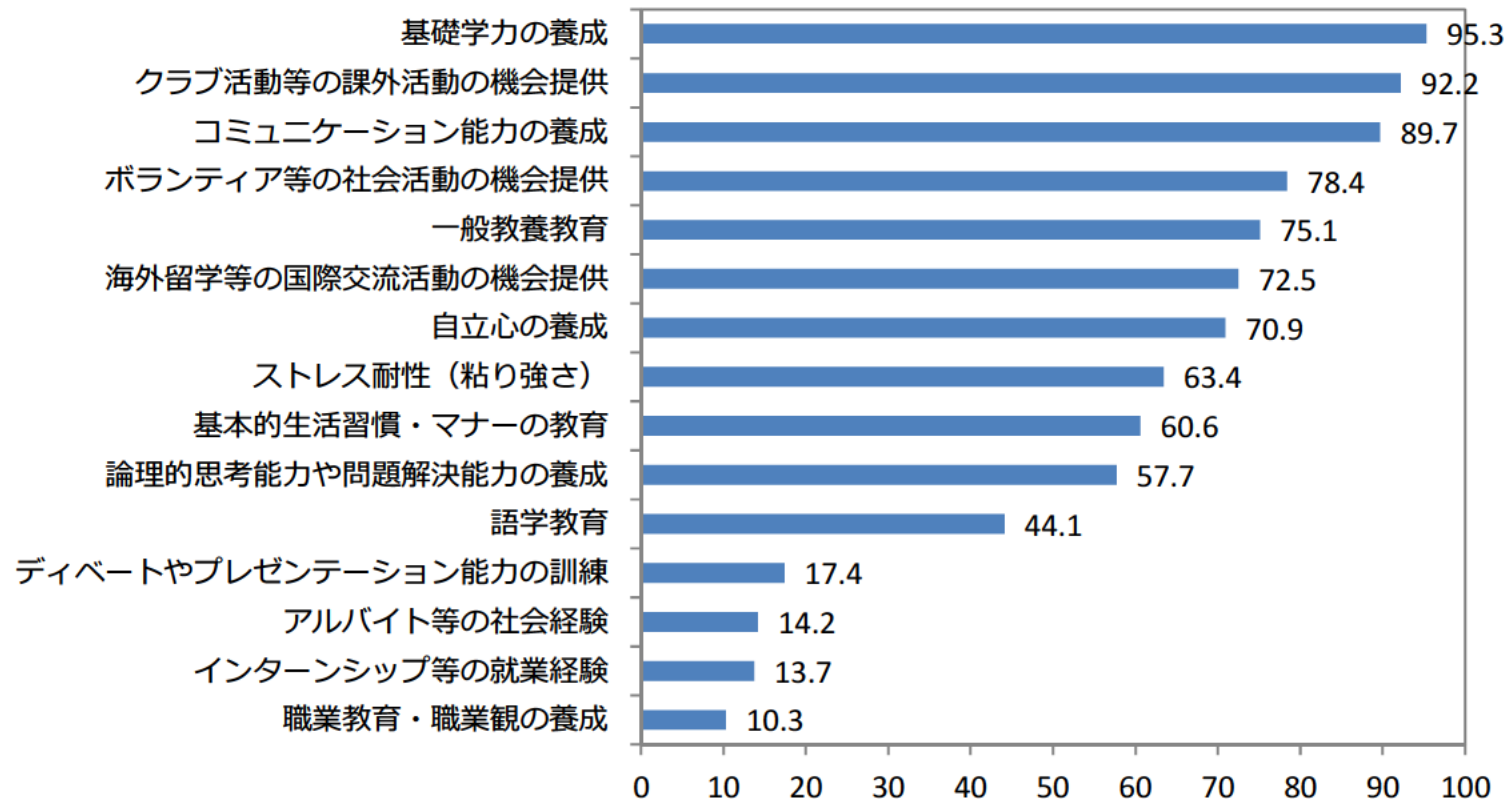
(出典)「新卒採用に関するアンケート」(2015)日本経済団体連合会

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

学校への期待

企業が中学校、高等学校に期待することは、「基礎学力の養成」が最も多く、次いで「クラブ活動等の課外活動の機会提供」、「コミュニケーション能力の養成」と続く。

中学校・高校に企業が期待すること



(出典)「企業の採用と教育に関するアンケート調査」(2014) 経済同友会

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

学習指導要領改訂の背景

人工知能が進化して、人間が活躍できる職業はなくなるのではないか。

今学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか。

学習指導要領改訂のポイント

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

- 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった、二項対立的な議論には戻らない。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、学習内容の削減を行うことはしない。
高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。
- 学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。
「アクティブ・ラーニング」の視点は、知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くことを目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行う。
①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。
- こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う（小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」等の新設など）。

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

国の教育改革の動向

1. 学習指導要領の改訂

- 小学校では平成32年度、中学校では平成33年度から新しい学習指導要領を導入予定、高等学校では、平成34年度から年次進行で新しい学習指導要領を導入予定
- グローバル社会において不可欠な英語能力の強化を図ることを目的とした小学校高学年での英語の教科化等や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- 課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の充実等
- 道徳の時間を「特別の教科である道徳」とすることについて、学習指導要領の一部改正を行い、平成27年度から移行措置として、その一部または全部を実施することが可能となっており、今後、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から全面实施予定
- 生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善（地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修履修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討）

2. 高大接続改革

- 教育の質の確保・向上を図り、生徒の学習改善に役立てるため、平成31年度から「高等学校基礎学力テスト（仮称）」を導入予定
- 「知識・技能」を基盤として「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するため、平成32年度から「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を導入予定

3. 学制の改革

- 平成28年度から、小中一貫教育を実施することを目的とする義務教育学校制度を施行

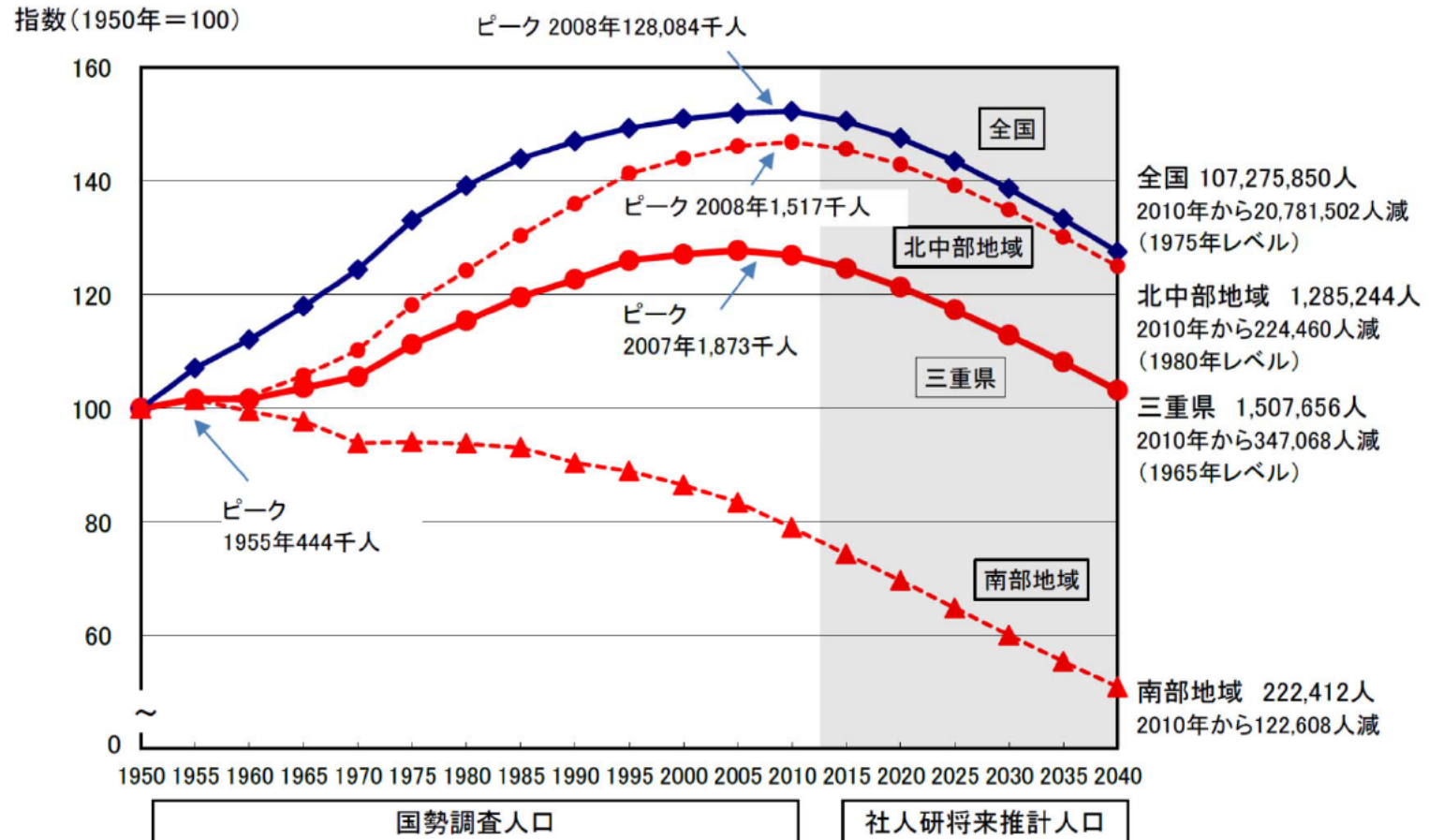
4. その他

- 教員以外の専門スタッフも参画した「チームとしての学校」の実現を通じた課題の解決
- 平成31年度から中学3年生を対象とした英語4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）を測定する全国的な学力調査を実施予定

2 人口減少・少子化の進行

人口減少の状況

三重県の人口は2007年（平成19年）をピークに減少局面に入っており、今後大幅な人口減少が見込まれる。



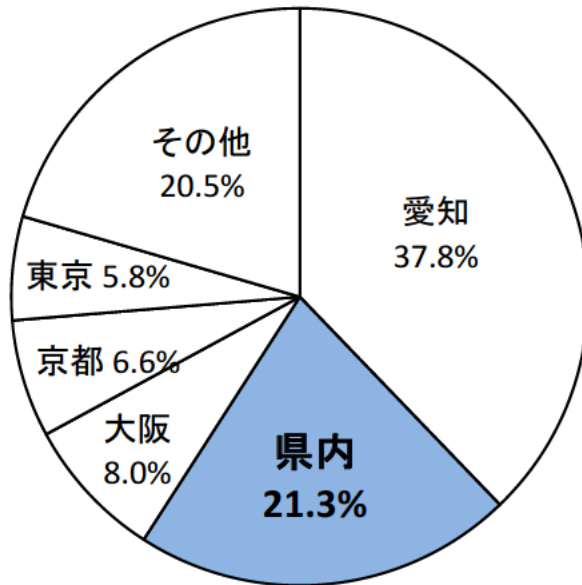
※ピーク人口は全国及び三重県は総務省「人口推計」、北中部地域は三重県統計課「人口・世帯の動き」、南部地域は「国勢調査」より作成

2 人口減少・少子化の進行

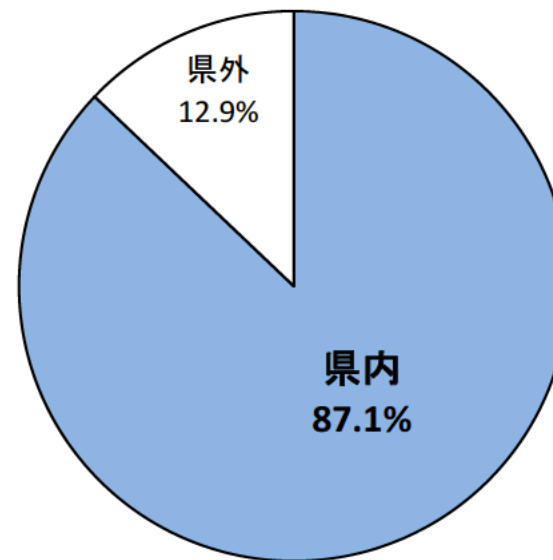
人口（社会減）の状況

本県の高校生が大学進学する際には、約8割が県外大学に進学している。一方、就職については、約9割が県内に就職している。

大学進学時の転出先



就職時の転出先

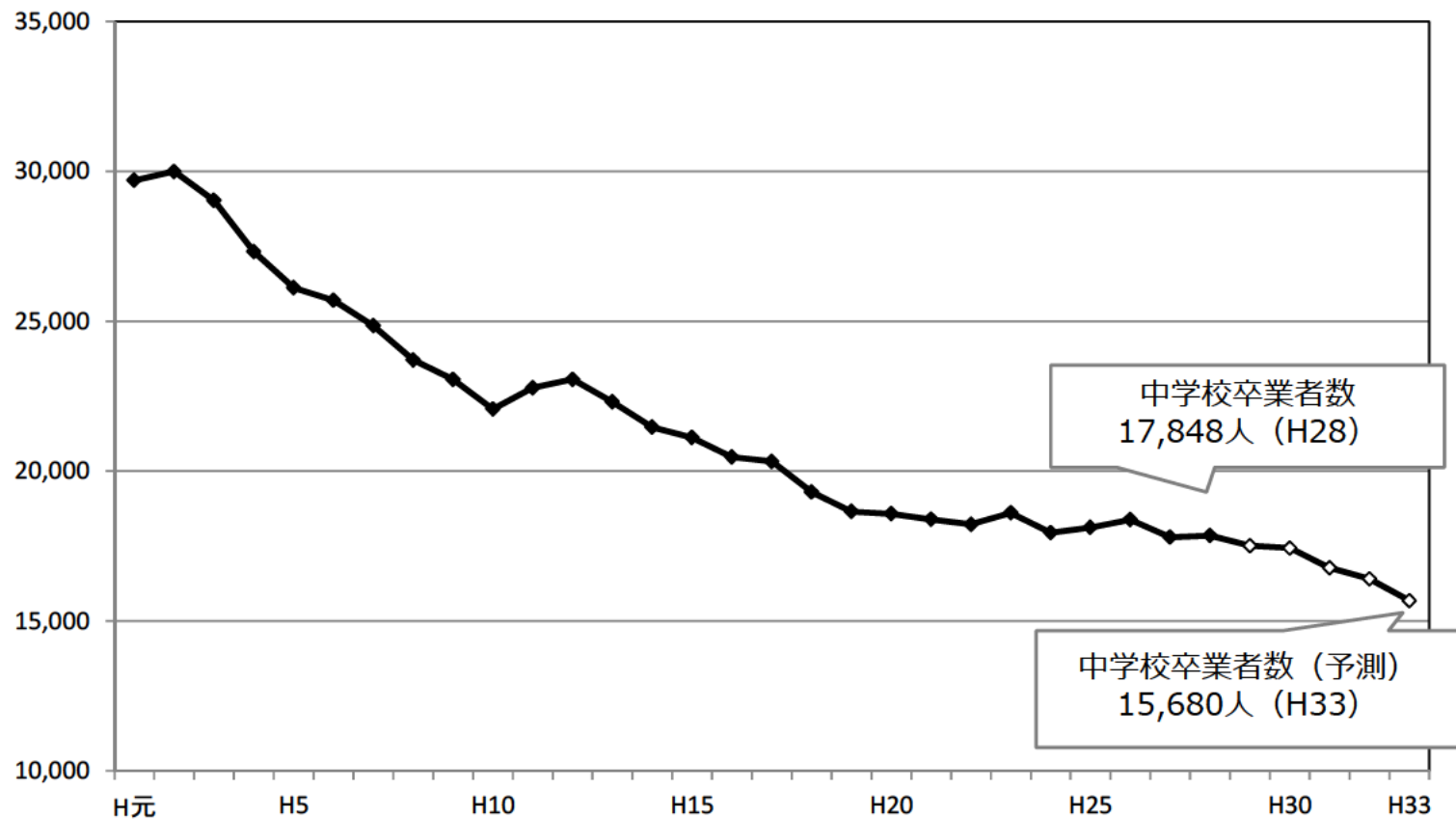


(出典)「学校基本調査」内閣府

2 人口減少・少子化の進行

中学校卒業生数の推移

県内の中学校卒業生数は年々減少を続けており、今後とも減少が続く見込み。



(出典)三重県教育委員会調べ

2 人口減少・少子化の進行

県立高等学校の入学定員学級数・募集停止・統廃合

本県では、これまで生徒の減少や地域の学習ニーズに対応するため、学校の統廃合等を行ってきたところ。

地域		年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
北部	学級数		110	112	112	112	113	112	112	114	115	111	111
	募集停止 統廃合等												
中部	学級数		132	130	128	127	131	123	125	123	125	120	122
	募集停止 統廃合等					上野商業 上野工業 上野農業 →伊賀白鳳 開校		神戸(定) 亀山(定) →飯野(定) 設置					名張桔梗丘 名張西 →名張青峰 開校
南部	学級数		97	95	94	92	93	89	90	87	87	84	82
	募集停止 統廃合等			南伊勢 南島校舎 募集停止	尾鷲 長島校 募集停止		宮川高校 (旧)相可高校 →(新)相可 高校開校						
学級数の合計			339	337	334	331	337	324	327	324	327	315	315

※ 北部・・・桑名、四日市
中部・・・鈴鹿、津、伊賀
南部・・・松阪、伊勢、紀北、紀南

(出典) 三重県教育委員会調べ

2 人口減少・少子化の進行

県立高等学校（全日制）学級数一覧（平成29年度第1学年）

県内には生徒の減少に伴い、適正規模である3～8学級を下回る学校も一部存在する状況。

地域名	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	学校数
桑員			桑名工業(工)		桑名北(普)		桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普・理・看)	5
四日市			菟野(普)		朝明(普) 四日市四郷(普) 四日市農芸(農・家) 四日市中央工業(工)	四日市西(普) 四日市商業(商)	川越(普・英) 四日市南(普) 四日市工業(工)	四日市(普)	11
鈴鹿・亀山			石薬師(普) 飯野(他・英)		白子(普・家) 稲生(普・体) 亀山(普・情・家)		神戸(普・理)		6
津		白山(普・商)			津工業(工) 久居(普) 久居農林(農・家)	津商業(商)	津西(普・国) 津東(普)	津(普)	8
松阪	飯南(総) 昂学園(総)			松阪商業(商・国)	松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)		6
伊勢志摩	鳥羽(総) 水産(水)	南伊勢(普) 志摩(普)		伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農・家・福)	宇治山田(普)		伊勢(普)		9
伊賀	あけぼの学園(総)			名張(総)		上野(普・理) 伊賀白鳳 (工・商・農・福)	名張青峰		5
東紀州		紀南(普)		木本(普・総)	尾鷲(普・商・工)				3
学校数	5	4	4	6	15	5	11	3	53

学科名略称：(普)=普通科、(総)=総合学科、(工)=工業科、(商)=商業科、(農)=農業科、(福)=福祉科、(家)=家庭科、(理)=理数科

(看)=看護科、(英)=英語科、(国)=国際科、(情)=情報科、(水)=水産科、(体)=体育科、(他)=その他(応用デザイン)

(出典)三重県教育委員会調べ

全国の全日制第1学年学級数別の学級規模の状況（都道府県立の本校のみ）

都道府県	平成28年度の学校規模(学級数)											全学校数	全クラス数	1校平均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～			
北海道	43	34	14	36	14	21	14	22	1			199	776	3.90
青森	2	11	2	12	7	12	6					52	227	4.37
岩手	4	13	10	6	14	11	5					63	255	4.05
宮城		5	11	6	10	12	16	4	1			65	343	5.28
秋田		6	8	7	8	15	1					45	201	4.47
山形	1	3	10	6	14	2	4		1			41	180	4.39
福島		22	6	9	12	13	13	5				80	367	4.59
茨城		1	10	19	17	22	14	10				93	503	5.41
栃木				16	22	12	6	3				59	312	5.29
群馬		9	7	12	10	10	7	7				62	302	4.87
埼玉		1	3	7	14	36	19	23	26	4	1	134	936	6.99
千葉		1	8	18	11	21	11	29	21		1	121	796	6.58
東京	3	2	1	11	27	57	28	44	5			178	1,124	6.31
神奈川				5	6	28	46	27	19	10		141	1,027	7.28
新潟	1	12	8	20	11	7	10	7	3	1		80	389	4.86
富山			7	11	6	6	6	1				37	181	4.89
石川		7	3	6	9	2	3	3	3	2		38	196	5.16
福井				7	8	2	2	3	4			26	154	5.92
山梨			3	2	5	8	6	3				27	156	5.78
長野		4	14	12	11	18	12	5				76	385	5.07
岐阜		1	7	11	8	11	9	7	4	3		61	358	5.87
静岡	1	2	4	9	15	24	12	11	5	2		85	509	5.99
愛知		3	4	7	12	32	22	29	30	7		146	1,024	7.01
三重	1	5	3	3	6	14	5	12	4			53	313	5.91
滋賀		1	7	5	3	13	5	5	2	2	1	44	260	5.91
京都			7	1	9	7	9	6	7			46	286	6.22
大阪		1			6	30	29	34	19	16		135	1,018	7.54
兵庫	4	6	11	5	19	27	26	22	7	0		127	747	5.88
奈良		1	4	1	2	9	2	7	4	2		32	208	6.50
和歌山			2	5	5	7	3	5		1	1	29	176	6.07
鳥取		1	5	4	7		3	2				22	105	4.77
島根	1	8	7	9	2	3	3	1				34	131	3.85
岡山			1	16	8	3	8	11	4			51	305	5.98
広島	10	11	5	9	14	11	10	8				78	353	4.53
山口		5	10	20	4	4	4	2				49	208	4.24
徳島		5	1	3	6	6	3	5			1	30	163	5.43
香川			3	8	4	5	6	5				31	173	5.58
愛媛	1	10	10	8	4	3	7	4	5			52	247	4.75
高知		10	2	8	3	3	4	1				31	127	4.10
福岡			1	20	23	13	8	11	7	8	2	93	585	6.29
佐賀		2	10	7	6	8	3					36	161	4.47
長崎	4	9	9	10	4	7	8	3				54	231	4.28
熊本		2	5	5	10	7	9	1	5	4		48	287	5.98
大分		2	1	11	8	6	5	3				36	186	5.17
宮崎	1	7	7	7	6	8	4	1		3		37	194	5.24
鹿児島		12	16	11	3	5	2	11	1			61	272	4.46
沖縄	1	3	4	4	9	9	9	9	5	5	1	59	375	6.36
計	78	231	271	435	442	590	447	412	192	71	8	3,177	17,812	5.40

※ 網掛け部分が、適正規模範囲内
 ※ 9学級学校 = 桑名、四日市、津、津西
 ※ 2学級以下の学校 = あけぼの学園、新学園、飯南、鳥羽、水産の5校
 ※ 南伊勢高校南勢校舎は1学級の本校であるため表に記載されているが、度々校舎(2学級・分校)と併せて3学級規模の学校とみなしている。

全国的にも、適正規模を下回る学校が存在。

2 人口減少・少子化の進行

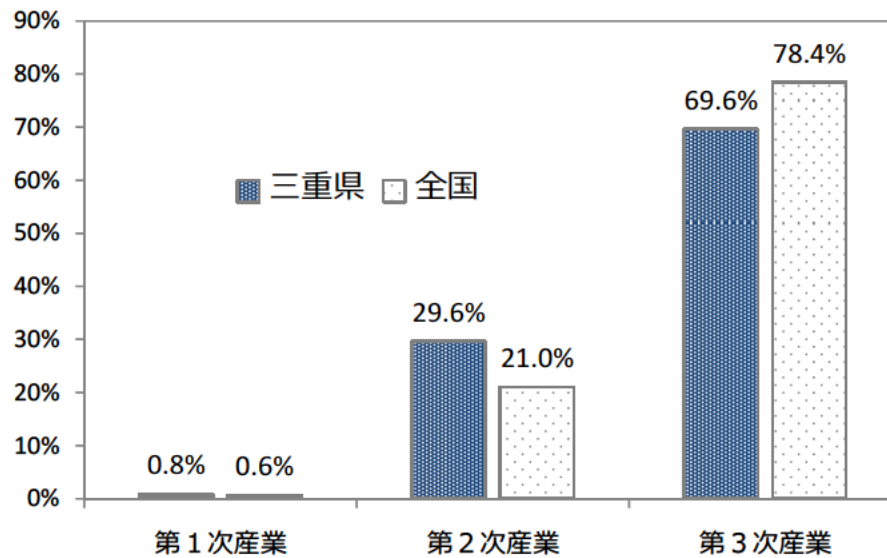
都道府県別 学級規模一覧

3 地域を担う人材育成のニーズの高まり

三重県の産業構造

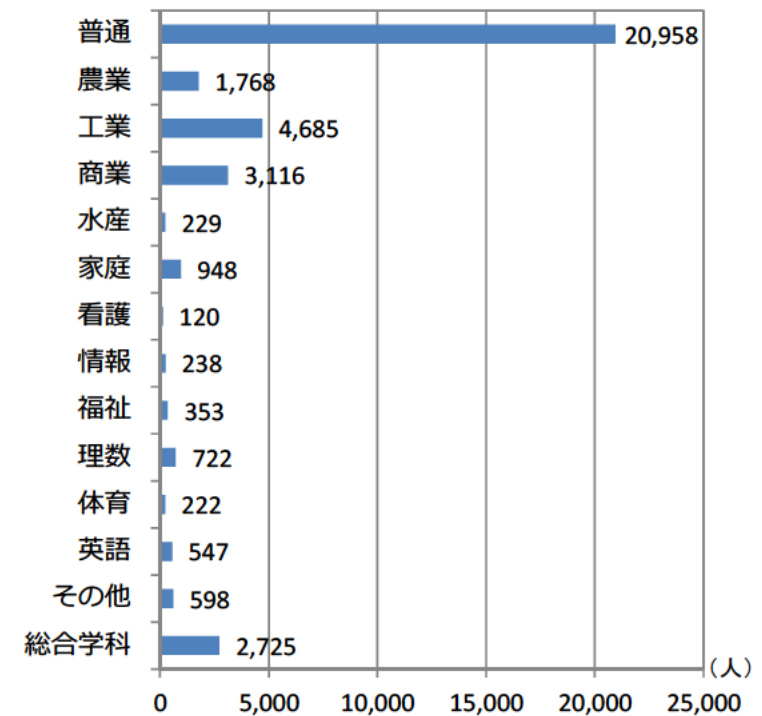
産業別の就業者割合をみると、三重県は第2次産業の構成割合が比較的高い。

就業者数の構成割合（三重県と全国の比較）



(出典)「労働力調査結果」内閣府

県立高等学校の学科別在籍者数

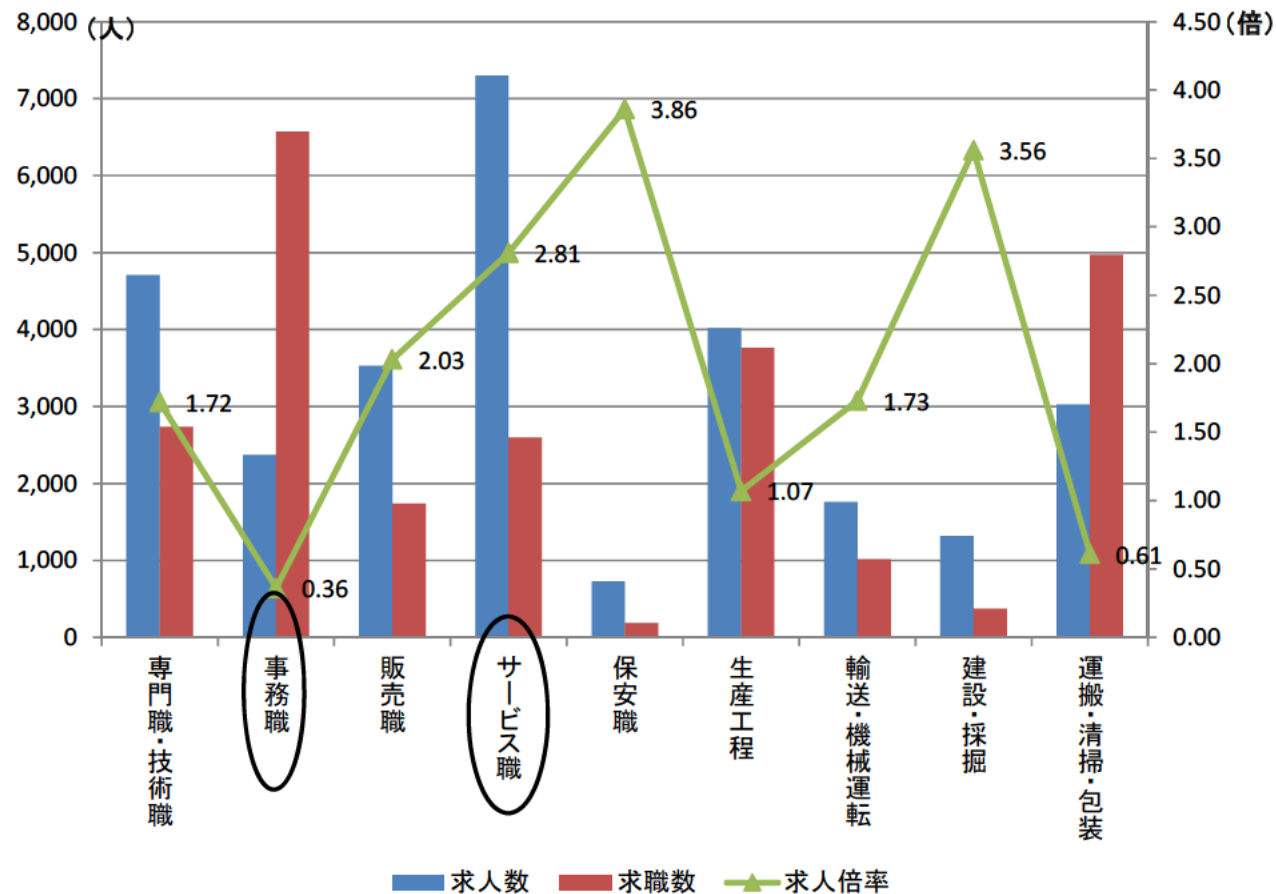


(出典) 三重県教育委員会調べ

3 地域を担う人材育成のニーズの高まり

求人・求職の状況

本県の求人・求職の状況をみると、事務職、サービス職等でミスマッチが大きい。



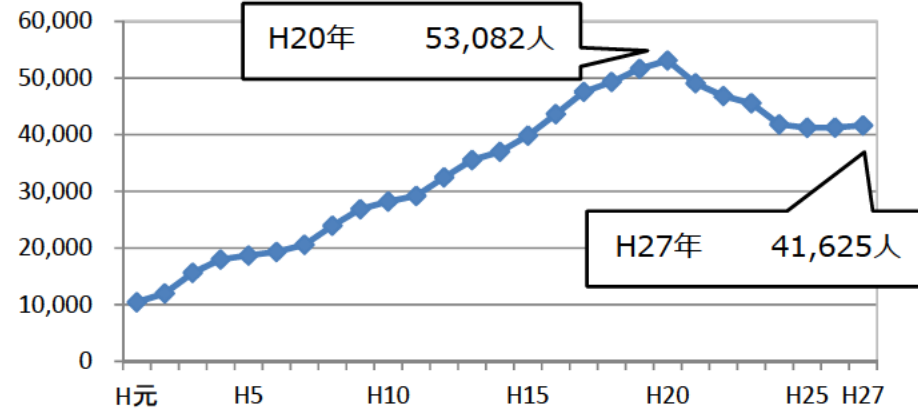
(出典)「求人・求職バランスシート」(H28.5)三重労働局

4 グローバル化の進展

外国人住民数の推移

本県の外国人住民数は、平成20年をピークに減少傾向にあるものの、県人口に占める割合は全国3位と依然高い。

外国人住民数の推移（三重県）



(出典) 三重県調べ

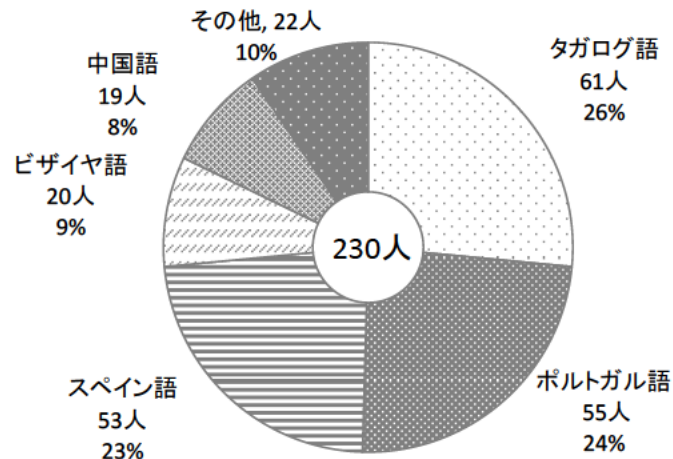
日本語指導が必要な外国人生徒数

県立高等学校における日本語指導が必要な外国人生徒の数は230人となっている。

海外研修を経験した生徒数

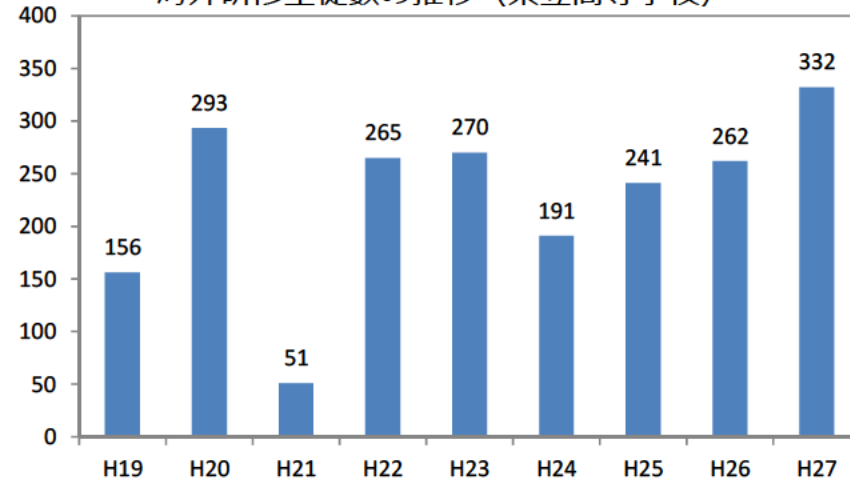
県立高等学校においては、毎年一定数の生徒が海外研修を経験している。

日本語指導が必要な外国人生徒数（県立高等学校）



(出典) 三重県教育委員会調べ

(人) 海外研修生徒数の推移（県立高等学校）



(出典) 三重県教育委員会調べ

5 情報化の進展

学校における情報化の状況

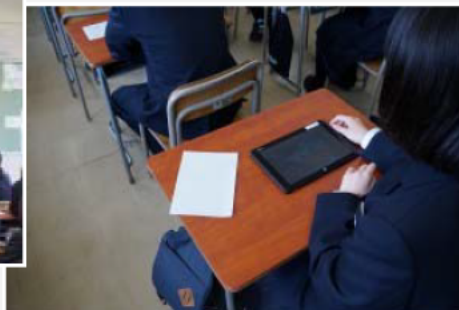
本県の情報化の状況は、ほぼ全国平均と同様の傾向。

	三重県	全国
教育用コンピュータ1台あたりの生徒数	5.1	5.0
1学校あたりの電子黒板の整備台数	0.9	2.3
普通教室のLAN整備率	100%	94.2%
授業中にICTを活用して指導する能力がある教員の割合	78.4%	70.7%

(出典)「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(H27)文部科学省

本県の事例

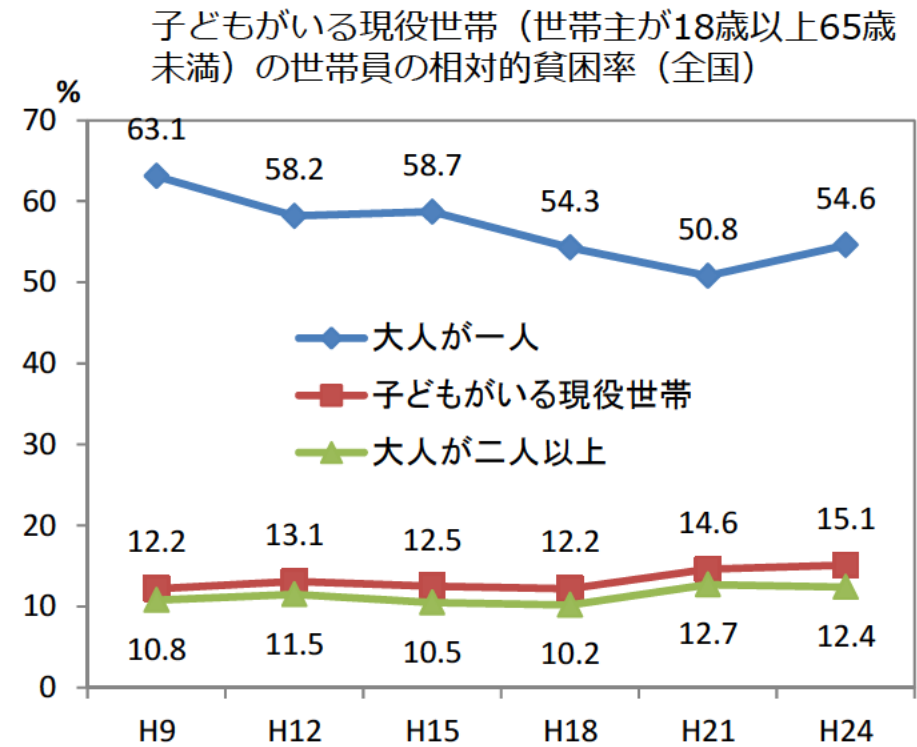
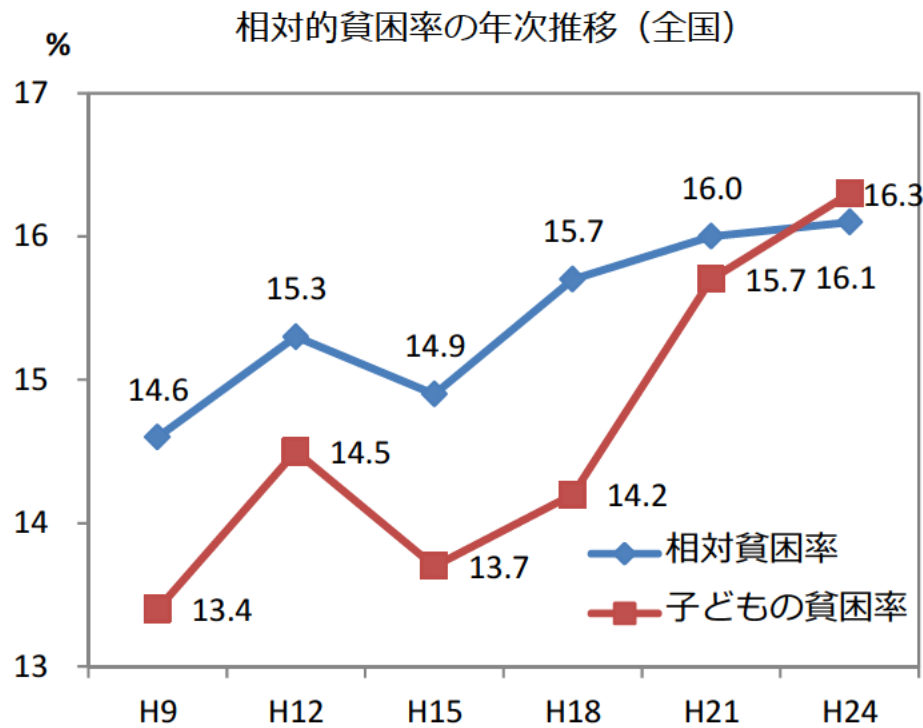
平成28年4月に開校した名張青峰高等学校では、全生徒にタブレットPCを配付するなど情報機器を活用した授業が行われている。



6 教育格差と貧困の連鎖

相対的貧困率の推移

相対貧困率（全国）は、全体で16.1%。子どもで16.3%。
大人が一人の「子どもがいる現役世帯」の相対的貧困率は54.6%と高くなっている。



(出典)「国民生活基礎調査(H25)」厚生労働省

7 学校の安全確保への対応

防災教育の実施状況

県立学校における防災ノートやワークシートを活用した防災教育は進んでいる状況。

	H24	H25	H26	H27
防災ノートを活用した学習をした県立学校の割合	96.4	100	100	100
ワークシートを持ち帰らせた県立学校の割合	—	—	57.3	74.4
「家庭」や「地域」と連携した防災の取組をした県立学校の割合	52.4	59.5	93.9	93.9
指定避難所または緊急避難場所に指定されている県立学校の割合	77.4	76.2	75.6	74.4

(出典)三重県教育委員会調べ

学校の耐震化

県立学校の建物の耐震化は完了したが、非構造部材（体育館のつり天井や照明設備等）の耐震対策が課題となっている。

耐震建物率	100%
非構造部材の耐震対策の実施率	20.3%

(出典)三重県教育委員会調べ

8 その他の参考データ

学校数、生徒数、教員数

(1) 学校数

	本校	分校	合計
全日制	55	1	56
定時制	11		11
通信制	2		2

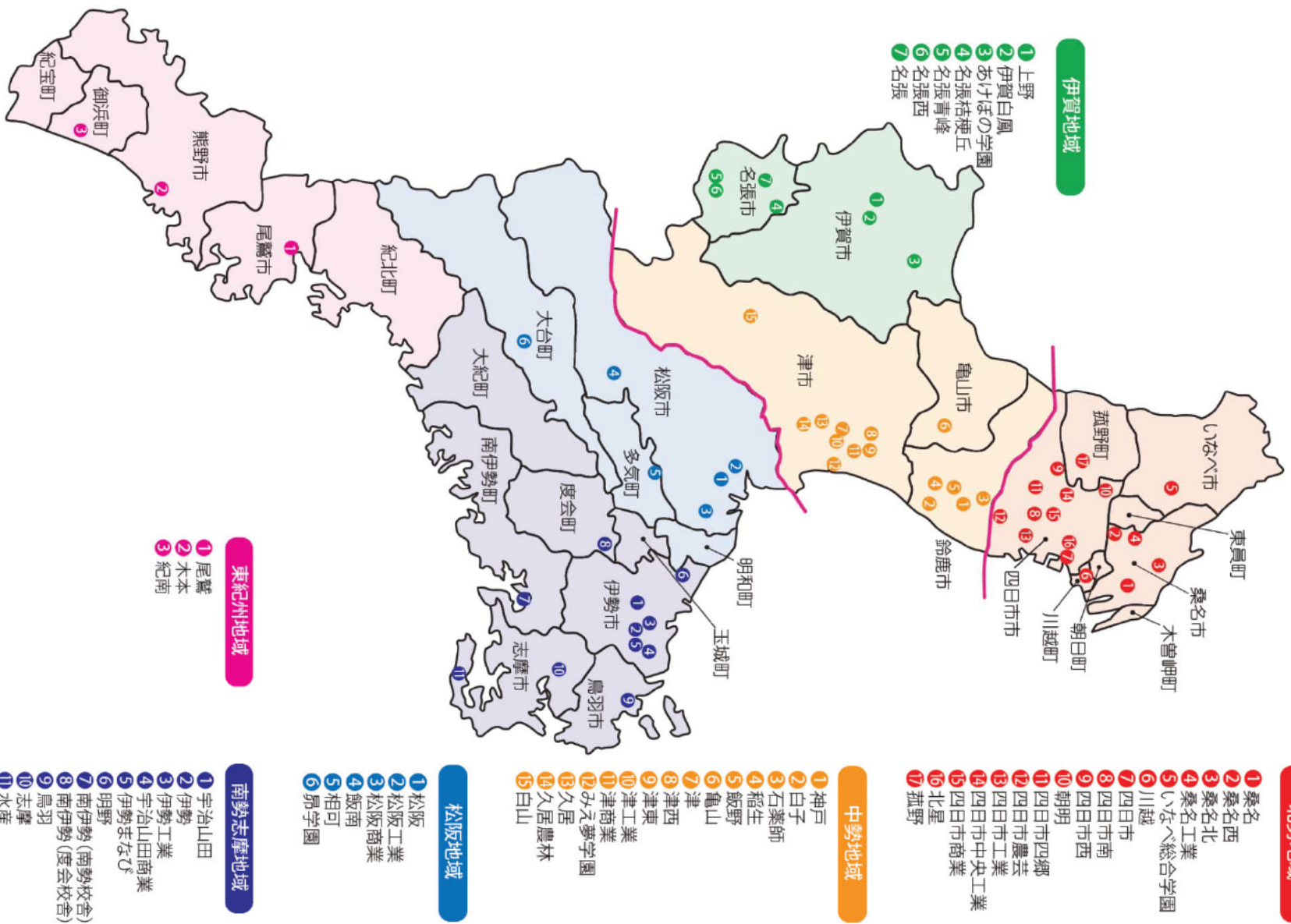
(2) 生徒数

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
高等学校	43,338	42,962	43,010	42,397	42,271	41,780	42,074	41,692	41,399
全日制	39,121	38,698	38,891	38,401	38,215	37,606	37,833	37,537	37,324
定時制	1,996	1,997	1,887	1,837	1,860	1,931	1,947	1,889	1,825
通信制	2,221	2,267	2,232	2,159	2,196	2,243	2,294	2,266	2,250

(3) 教員数

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
高等学校	3,163	3,149	3,167	3,154	3,135	3,088	3,061	3,034	3,019
全日制	2,928	2,916	2,930	2,911	2,894	2,850	2,833	2,805	2,788
定時制	202	200	203	210	207	205	196	196	199
通信制	33	33	34	33	34	33	32	33	32

県立高等学校の所在地



北勢地域

- 1 桑名西
- 2 桑名北
- 3 桑名工業
- 4 いなへつ総合学園
- 5 川越
- 6 四日市
- 7 四日市南
- 8 四日市西
- 9 朝明
- 10 四日市四郷
- 11 四日市農業
- 12 四日市工業
- 13 四日市中央工業
- 14 四日市商業
- 15 北星
- 16 北星
- 17 菟野

伊賀地域

- 1 上野
- 2 伊賀白鳳
- 3 あげほの学園
- 4 名張桔梗丘
- 5 名張青峰
- 6 名張西
- 7 名張

中勢地域

- 1 神戸
- 2 白子
- 3 石薬師
- 4 稲生
- 5 飯野
- 6 亀山
- 7 津西
- 8 津東
- 9 津工業
- 10 津商業
- 11 津商業
- 12 みえ夢学園
- 13 久居
- 14 久居農林
- 15 白山

松阪地域

- 1 松阪
- 2 松阪工業
- 3 松阪商業
- 4 飯南
- 5 相可
- 6 昴学園

南勢志摩地域

- 1 宇治山田
- 2 伊勢
- 3 伊勢工業
- 4 宇治山田商業
- 5 伊勢まなび
- 6 明野
- 7 南伊勢(南勢校舎)
- 8 南伊勢(度会校舎)
- 9 鳥羽
- 10 志摩
- 11 水産

東紀州地域

- 1 尾鷲
- 2 木本
- 3 紀南

8 その他の参考データ

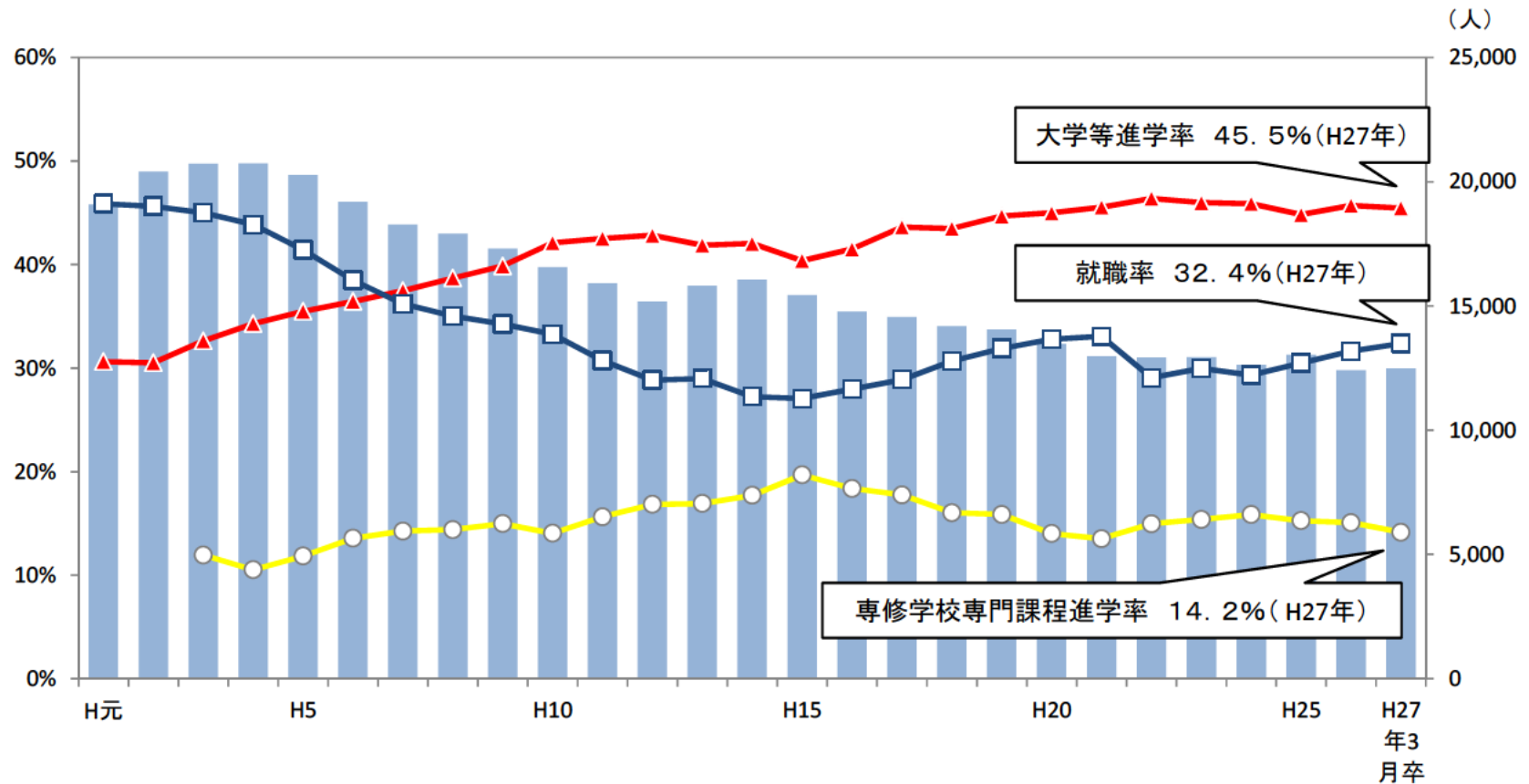
県立高等学校の教育課程による分類

全日制課程		定時制課程
普通科		桑名、桑名西、桑名北、川越、四日市、四日市南、四日市西、朝明、四日市四郷、菰野、神戸、白子、石薬師、稲生、亀山、津、津西【単】、津東【単】、久居【単】、白山、松阪、相可【単】、宇治山田、伊勢、南伊勢(南勢、度会校舎)、志摩、上野、名張青峰【単】、尾鷲【単】、木本、紀南【単】
	コース制	四日市(国際科学)、四日市南(数理科学)、四日市西(比文・歴史、数理情報)、四日市四郷(スポーツ科学)、白子(文化教養)、稲生(情報)、久居(スポーツ科学)【単】、伊勢(国際科学)、志摩(国際)、名張青峰(文理探究)【単】、尾鷲(プログレッシブ)【単】
専門学科	農業	四日市農芸、久居農林、相可、明野、伊賀白鳳(生物資源・フードシステム)【単】
	工業	桑名工業、四日市工業、四日市中央工業、津工業、松阪工業、伊勢工業、伊賀白鳳(機械・電子機械・工芸デザイン)【単】、尾鷲(システム工学)【単】
	商業	四日市商業、津商業、白山(情報コミュニケーション)、宇治山田商業、松阪商業【単】、伊賀白鳳(経営)【単】、尾鷲(情報ビジネス)【単】
	水産	水産(海洋・機関、水産資源)
	家庭	四日市農芸(生活文化)、白子(生活創造)、亀山(総合生活)、久居農林(生活デザイン)、相可(食物調理)、明野(生活教養)
	看護	桑名(衛生看護)
	情報	亀山(システムメディア)
	福祉	朝明(ふくし)、明野(福祉)、伊賀白鳳(ヒューマンサービス)【単】
	その他	桑名(理数)、川越(国際文理)、神戸(理数)、稲生(体育)、飯野(英語コミュニケーション・応用デザイン)、津西(国際科学)【単】、松阪(理数)、松阪商業(国際教養)【単】、上野(理数)、
総合学科	いなべ総合学園、飯南、昴学園、鳥羽、あけぼの学園、名張、木本【すべて単位制】	
普通科	桑名、北星【単】 飯野【単】 松阪工業【単】 伊勢まなび(昼間部)【単】 上野、名張【単】 尾鷲【単】 木本【単】	
専門学科	北星(情報ビジネス)【単】 四日市工業【単】 伊勢まなび(夜間部)【単】 ものづくり工学【単】	
総合学科	みえ夢学園【単】	
		通信制課程
		普通科 北星【単】 松阪【単】

※【単】は単位制

8 その他の参考データ

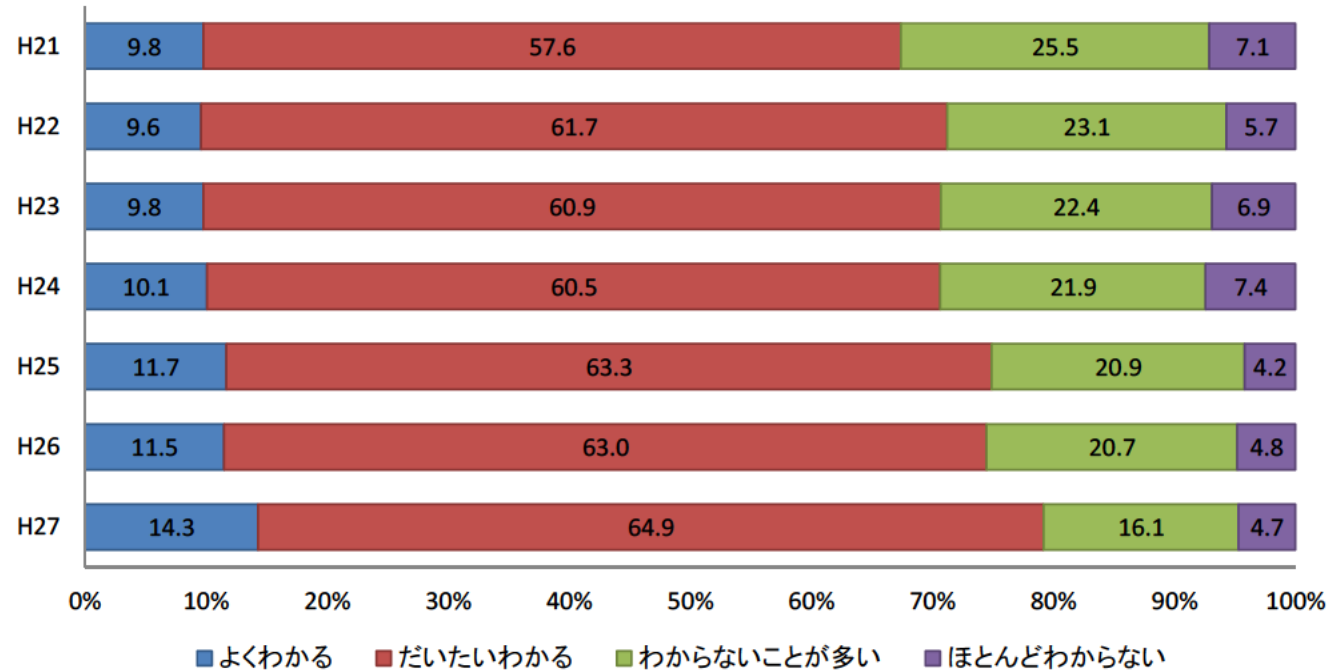
県立高等学校の卒業生数、進学率、就職率の推移



(出典) 三重県教育委員会調べ

8 その他の参考データ

県立高等学校生徒の授業内容の理解度



(出典)三重県教育委員会調べ

8 その他の参考データ

高等学校の特色化・魅力化の事例

(1) 三重県の事例

■スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH)

三重県立四日市高等学校

- 「三重・四日市から世界へ！新たな価値を創造する国際人育成プログラム」
(地方の学校でもグローバル・リーダーを育成できることを示す)
- 「グローバル・リーダー学」「四高SGHスーパープレゼンテーション」「白熱英語教室」
- カンボジア等への海外フィールドワークを実施

■総合学科

三重県立あけぼの学園高等学校

- 三重県で美容を学ぶことができる唯一の高校
- 高校生美容室「Akebono hair」を校内に開店し、現場教育により効果を高める
- 地域企業と連携し、シャンプーなども商品企画・販売

■総合専門学科高校

三重県立伊賀白鳳高等学校

- 小規模化が進んでいた上野工業、上野農業、上野商業の3校を再編統合
→総合専門学科学校として、魅力ある7学科13の専門コースを設置
- 地域や企業との協働による人材育成を通して、職業人を育成
- くくり募集（入学定員をまとめて募集し、1年後期に希望する学科・コースを選択する仕組み）やコース制・総合選択制を生かし、生徒の進路希望にきめ細かく対応

■地域の課題解決

三重県立南伊勢高等学校 南勢校舎

- 人口減と少子高齢化が激しい南伊勢町の地域課題と向き合う
- 地域ビジネス創出プロジェクト（行政や民間企業と連携して、地域資源を生かしたビジネスを創出）
 - ・「セレクトギフト」プロジェクト…生徒が自ら地元特産品を選び、仕入れ交渉し、パッケージデザインし販売する。
 - ・「たいみー焼き」プロジェクト…南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」にちなんだたい焼きを考案し、南伊勢町のPRをしながら販売
 - ・吉本興業と連携し、地域劇団を立ち上げ、公演を開催

■外国人生徒教育

三重県立飯野高等学校

- 外国人生徒教育の拠点校として位置づけ
- 外国人生徒支援専門員（ポルトガル語、スペイン語）2名を配置
- 英語コミュニケーション科における特別枠選抜の募集人員を、「原則5名以内」から「原則10名以内」に拡大、出願資格を、入国後「3年以内」から「6年以内」に拡大

■コミュニティスクール

三重県立紀南高等学校

- 学校運営協議会（地域連携、進路支援、企画広報の3部会）の運営により、地域や小中学校と連携した授業の取組、企業開拓、コミュニティ新聞の発行等を実施
- 「対話集会」の実施（1年次）
 - ・生徒自身が学校生活や進路について、地域の人々と意見交換
- デュアルシステムによるインターンシップの実施（2年次）

(2) 他県の事例

■ キャンパス制（校舎制）

山口県立大津緑洋高等学校

- 大津高校（普通科）、日置農業高校及び水産高校を再編統合して、3つの校地にある施設を活用した新高校を設置
- 各学科の連携を図りながら、学科の枠を越えた学習や多様な学習体験を可能に
- 農業科、水産学科のイメージアップに成功→大きな定員割れを回避
- 全生徒が、体験航海や農業体験など多様な経験が可能に
- スケールメリットが出て、部活動が盛んに（ラグビー部は全国大会に）
各校舎に核となる部を設置し、放課後にバスで移動

■ 地元自治体との連携・支援

島根県立飯南高等学校

- 飯南町は幼保小中高の一貫教育をうたい、飯南高校魅力化事業を実施
 - ・寮費補助（月1万円）、特別奨学金（成績優秀者に年10万円）の支給
 - ・町営塾「飯南町学習支援館」（月謝5,000円）を運営
 - ・スクールバス(3台)、支援バス（2台）の貸与
- 中高の教員が密接に交流 → ティームティーチング、合同職員会議
- 生徒同士も密接に交流 → 合同文化祭、部活動交流、合同勉強合宿
- 町内中学校の成績上位生徒がこぞって飯南高校に進学→進学率向上（8割）
- 大学進学実績が向上…毎年10人程度の国公立大学入学者を輩出
- 部活動も活性化されて好成績をのこすクラブも出現

■ 道立高校の市への譲渡

北海道三笠高等学校

- 道立高校の廃校と、三笠市立高校の新設を同時に実施（H23）
- 敷地と校舎を北海道が三笠市に譲渡
- 普通科から職業学科に転換、市立としては全国的にも珍しい「食物調理科」に。食のスペシャリストを養成
- 三笠市が学生寮を増設・運営（寮費は食費のみ3万円）
- 募集状況が大幅に改善（定員割れ→初年度2.2倍）

■ 施設一体型中高一貫連携校

秋田県立矢島高等学校

- 由利本荘市立矢島中学校と同じ敷地内に同居→全国初の校舎一体型中高連携校
- 一体型の職員室によって連携をスムーズに
- 中高の教員が協力することで多様な教育課程やきめ細やかな生徒指導が可能に
- 連携中学校から一定の進学者（43%）を持続

■ 地域の特色を生かした学科改編

長野県立白馬高等学校

- 国際観光科を新設
- 伝統あるスキー部→7名のオリンピック選手がスーパーバイザー
- 公営塾による学習サポート

■スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）

横浜市立サイエンスフロンティア高等学校

- 先端科学技術4分野（生命科学、ナノテク・材料、環境、情報）
- 「ほんもの体験」をきっかけとした「驚きと感動による知の探究」
- ノーベル賞受賞者がスーパーアドバイザー、50人以上の科学技術顧問
- スーパーサイエンスハイスクール（コアSSH）とスーパーグローバルハイスクール
- 特色ある入学試験（資料読み取り論述式）
- 平成28年度に敷地内に附属中学校（定員80人）を開講予定
- 初年度卒業生からは、東京大学・東京工業大学等への合格者
- 2期生からは、国際地学オリンピック金メダリストを輩出

■グローバル教育科の新設+国際バカロレア認定

高知県立高知南中学校・高等学校+高知県立高知西高等学校（予定）

- グローバル教育科のなかに、グローバルコースと国際バカロレアコースを設置
- 高度な英語運用能力や論理的思考力、課題解決能力、コミュニケーション能力育成